

第 2 回木材保存技術奨励賞

「低毒性防かび剤の製剤化に関する研究」

野村安宏（株式会社片山化学工業研究所）

昭和 56 年 3 月岡山理科大学理学部応用化学科卒業、昭和 56 年 4 月株式会社片山化学工業研究所に入社し、昭和 56 年 5 月～60 年 3 月京都大学木材研究所木材防腐防虫実験施設に出向（その間昭和 58 年 5 月～59 年 3 月ニュージーランド林業研究所木材保存研究室に出向）、昭和 60 年 4 月より片山化学工業研究所研究部に所属し、現在に至る。

業績概要

ペンタクロルフェノール（PCP）やトリクロルフェノール（TCP）等の塩素化フェノールおよびそのナトリウム塩が木材防かび剤として一般に知られ、現在、TCP が日本の木材防かび剤の主流となっています。しかし、その毒性や副産物としてのダイオキシンが世界的な問題となり、代替薬剤が求められています。

そこで、様々な分野の低毒性殺菌剤・防かび剤として開発された化合物を用い、木材用防かび剤としての効力を化合物単独及び組み合わせ混合剤にて確認し、室内試験でスクリーニングされた混合剤について、野外試験・実用試験による研究を進めました。その結果、TCMTB と MBTC の混合薬剤において、防かび効力、薬剤の安定性・耐劣化性、木材への浸透性、鉄腐食性などに於いて満足できる製剤改良がなされ、低毒性木材防かび剤を開発することが出来ました。

今後の取り組み

本成果について関連業界への技術説明などを積極的に行い、低毒性木材防かび剤の普及に努めたいと思います。また、防かび剤を検討するに当たっては、現場での使用状況や地域による環境、処理樹種などを考慮して製剤化し、試験的な使用を実施して防カビ効力を含めた総合的な性能評価が必要と考えています。

主な成果報告

- 1) 野村安宏：木材用防かび剤の製剤化に関する研究，木材保存，16 巻 5 号，236-244 (1990).
- 2) Yasuhiro Nomura: Laboratory and field evaluations of novel formulation, BAM as an anti-sapstain agent, Doc. No. IRG/WP/3639 (1991).

（「木材保存」誌に受賞の記事が未掲載だったため、第 7 回日本木材保存協会年次大会要旨集（1991.10）の木材保存技術奨励賞講演要旨などから、事務局が 2018 年 6 月に作成）